

## 林英輔先生と CAUA

斎藤 馨

東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

CTC アカデミックユーザーアソシエーション (CAUA) は 2000 年 3 月に創設され、林英輔先生は 2009 年 3 月まで会長をされてきました。林先生は、2000 年 3 月まで流通経済大学で、同 4 月からは麗澤大学に移られたので、麗澤大学に在籍中の期間は CAUA の会長として活動をされてきました。

私自身の専門は造園学や森林科学ですが、大型計算機のパンチカードを使っていた時代から、インターネットまでコンピューターに関わっており、その関係で林先生にお世話になっていました。

CAUA は、バンダーフリーな会として始まりました。林先生は、毎回のセミナーの企画の際には、ご自身で事前に講演者の方に会い、地方での開催であれば現地に行って、登壇者の人選にも関わられました。この時代は、大学の計算センターや図書館のシステム等様々なものが情報化されたのですが、セミナーでは、単に最先端の技術や製品の紹介やシステムの話をするのではなく、それに携わった方の苦労した点も交えて話をするなど、大学関係者だけでなく、民間のバンダーの方も含めて、共有できる内容でした。林先生のバックグラウンドに触れられたような気がしました。

CAUA では、年に 1 回 3 月に会誌を発行しています<sup>1</sup>。2001 年 3 月の第 1 号から 2009 年の第 9 号までが、林先生が会長を務められていた時期です。見出しを見ていくと、2003 年頃より、高校での教科情報の話題や、京都、愛媛、仙台等の地域情報化、地域ネットワークと大学の役割というテーマが出てきています。全国を回ってアクティブに活動されていることがわかります。

私は、1995 年からサイバーフォレストというプロジェクトを行い、森林で映像を撮ったり、DVD を作ったりしています。それを林先生に話したところ、その素材を使って遠隔講義を試みたらどうかという、私では考

えてもいなかったことを言われました。そして、2008 年 10 月に山梨県の大葉東小学校の総合学習で、ネットワーク越しに我々が撮りためた映像を使った授業を行いました。事前に小学校を訪問し、どういう内容が先生から見て教材になるのか、子供たちが興味をもつのかについて確認しました。それまでは子どもに見せることを考えていなかったもので、非常に勉強になりました。そして、2009 年 4 月には、茨城教育大学、10 月には麗澤大学で 105 名の生徒を対象に授業を行いました。その活動により、2010 年に総務省の関東総合通信局長賞をいただきました。

最近では、博物館で映像を展示することも行いましたが、博物館では中から外にネットワークを通すのが非常に難しいです。小中学校にインターネットを通した、林先生の御苦労が少し分かったように思えます。また、教育にはネットワークが必要で、そのインフラの重要性を改めて認識しました。

CAUA は、オープンな形で人が集まる会です。これまでのインターネットの発展、情報化の中で、まだまだ発展途上の会です。

2010 年頃から、衛星ネットワークを森林の奥まで引くのも研究費で賄えるくらいになり、インターネットリーチャビリティが数時間ですが取れるようになりました。それにより、サイバーフォレストで、リアルなものがリアルタイムで一時的に見たり聞いたりできるようになりました。それを林先生に話したところ、「それは、インターネットにある本物の自然だよ」と言っていたいただきました。以来、サイバーフォレストに、『インターネットの先にある本物の自然』というサブタイトルを付けて紹介をしています。そして、2013 年度の日本造園学会の田村剛賞<sup>2</sup>を受賞することができました。林先生あつてのサイバーフォレストの発展だと感謝しております。

最後に、ぜひ、CAUA の会誌『VIEW POINT』を目次だけでも見てください。林先生がイメージして、毎回ご苦労をされて作り上げてきたものに触れることができます。

1 CAUA 会誌『ViewPoint』  
<http://www.ctc-g.co.jp/~caua/viewpoint/index.htm>

2 <http://www.jila-zouen.org/awards>